

活動報告書

報告者氏名： 堀口 幸也

所属： 和歌山県立みはま支援学校

【対象児（群）の情報】

・ 学年

特別支援学校 小学部 3年生

・ 障害名

染色体異常、肢体不自由、知的障害

・ 障害と困難の内容

- ・ 新たな教材などに対して興味を示しにくい傾向があり、教材を提示すると視線を反らしたりすることがある。また、積極的に教材や、人に関わる様子が見られない
- ・ 手指の動きでは、手を左右に動かしたりする粗大な運動は出来るが、微細な動きは難しい面がある。

【活動目的】

・ 当初のねらい

本児童が、興味を示す音や、カラフルな色の映像などで構成されているアプリを用いることで、主体的な動きを引き出し、手指の操作性の向上や、自ら人や物に関わろうとする気持ちを育てていきたいと考えました。iPadを操作するにあたって、手指を動かしやすいように、クッションチェアを使用して、姿勢を安定させて取り組みました。



・ 実施期間

平成 24 年 4 月～平成 25 年 2 月 一週間に、40分程度

・ 実施者

堀口幸也（特別支援学校教諭）

・ 実施者と対象児の関係

担当教員

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の初期の状況

iPad を使用し始めた時には、新しい教材ということもあり、視線を向けることはありませんでした。しかし、iPad のアプリで、「Youtube」を使用し、病院で見ているアニメなどを表示すると、1 分間程度集中して画面を見るようになりました。最初に、使用したアプリは Youtube 以外では、「Pocket Pond」、「I love fireworks lite」などの、アプリを使用しました。「Pocket Pond」では、画面にコイがゆっくりと動いている様子を見ていて、1 度画面を触ると水の音が聞こえるので、音や画面の変化の速さが、児童にとって、分かりやすいアプリだと考えて使用しました。画面に触れる音に興味を持っていて、20 秒程度手を伸ばすことが見られるようになってきました。

「I Love Fireworks lite」では、画面の指定の場所ではなくて、触れた画面の場所で光や音が出ることで、児童が自ら関わることの変化が分かりやすいアプリだと考えて使用しました。画面に触れることで、綺麗な花火がみられるので、20 秒程度の時間であれば、iPad を触れることができました。しばらくすると、iPad への興味は、みられるようになってきたが、積極的に手指を動かして関わることは難しかったです。画面に手を触れるように導いても、すぐに手を離すことが多くみられました。

・活動に取り組んでいくなかで

iPad に興味を持つようになってきて、のぞきこむような様子がよくみられるようになってきました。また、クッションチェアでは、姿勢は安定するが、体重が後ろにかかってしまいがちになっているので、ブロックなどに座って後方から支えることで、iPad の画面に手を伸ばしやすい姿勢をとるようにしました。自ら画面に触る場面もみられるようになってきて、Pocket Pond では、1 分間程度画面に集中して、活動する様子がみられました。I love fireworks lite でも、1 分間程度は画面に注目し、触るようになってきました。また、新たなアプリとして、「a Xylophone」「Kanon Drum」などの楽器アプリに取り組みました。楽器に興味があるので、新たなアプリであっても、積極的に手を出して音が鳴ると画面を触ってもう一度音を鳴らそうとすることが多くみられるようになりました。

・対象児の事後の変化

継続的に iPad を用いた授業に取り組んできたことにより、iPad が出てくると触りたいという気持ちがあらわれるようになり、教員が促さなくても、積極的に手を伸ばすようになりました。表情も意欲的になって、笑顔もみられるようになってきました。画面に触れている時間も長くなり、「Pocket Pond」「I love fireworks lite」では、3 分間以上、集中して活動することもみられました。手指を動かすことにおいても、新たに取り組んだ「音が出るお絵かき」では、教員の援助なしに自分で画面に線を描くこともありました。また、音が出たりすると、教師に向かって、「僕、やったよ」という表情を向けることも増えてきました。このように、自ら教材に関わろうとする姿勢がみられるようになり、人に自分の楽しい気持ちを伝えようとする様子がみられるようになりました。

